

第2学年〇組 技術・家庭科学習指導案

場 所 2年〇組教室

指導者 木村 香理

1 題材名 安全な住まい方を工夫しよう

2 題材の目標

安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解し、課題を見付け、調査・観察・実験などを通して考え、工夫している。

3 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成20年9月文部科学省）（以下解説と記す）には、「家族が快適に住まうためには、室内を安全で安心できる状態にすることが必要であることに気付くようにする。」と示されている。昨年、東日本大震災に被災した体験や、高齢者や幼児と共に生活を営む家庭における家庭内事故の現状を基に、事故の防止や自然災害への備えを行い、安心して住生活を送るために工夫する態度と能力を育てたい。

(2) 生徒の実態

住まいは家族にとってもっとも身近な環境であるにも関わらず、住生活の学習内容に対する意識は低い。しかし、本学級は、小学校履修の快適な室内環境の住まい方の基礎である換気や採光に関しての知識がある生徒が多い。家庭内事故の防止や自然災害への対処等、安全に住むための工夫については、実感を伴っていない生徒が多い傾向にある。

(3) 指導観

解説に、「生徒が興味・関心等に応じて住生活の課題を設定し、その解決を目指して、問題解決的な学習を進めるよう指導する。」と示されている。過去の災害を振り返る活動や高齢者疑似体験や幼児体験から不自由さや不便さを体験する活動を通して気付きや実感を伴わせ、よりよく住生活を送るための工夫ができる知識や技術を育ませたい。そのうえで、各自の課題を見いだし解決する問題解決的な学習を行い、問題解決能力を養いたい。

4 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
安全で快適な室内環境の整え方や住まい方に関心を持ち、整え方と住まい方の課題に取り組み、住生活を豊かにしようとしている。	室内環境について課題を見付け、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。		住居の機能について理解し、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する知識を身に付けている。

5 指導計画

(1) 全体計画（7時間扱い）

第1次 住まいの役割や機能を知ろう・・・2時間

第2次 健康で快適に住める室内環境条件を考えよう・・・2時間

第3次 安全で快適に住める室内環境条件を考えよう・・・3時間

(2) 本時に関わる指導計画及び評価規準（本時はその第7時）

6 本時の学習

時	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の 技能	生活や技術につい ての知識・理解
1 2	○自分や家族の住空間と生活 ・ 行為との関わりに関心をも ち、住居の基本的な機能や 日本各地の住まいと特徴に ついて知ることができる。 ・ 住空間と生活行為の関わり を話し合う。 ・ 各地の住まいの特徴を調べ 話し合う。	①自分や家族の住空 間と生活行為との 関わりについて関 心をもって学習活 動に取り組んでい る。 ・ 行動観察 ・ 自己評価			①住居の基本的な機 能について理解し ている。 ・ 行動観察 ・ 学習プリント
3 4	○健康で快適に暮らせるため に室内環境について考える ことができる。 ・ 快適に住まうためにどうし たらよいか話し合う。 ・ 室内の空気調節や音と生活 との関わりについて考え、 具体的な方法を話し合う。	②健康で安全に快適 に住まうためには どうしたらよいか に関心をもって学 習活動に取り組ん でいる。 ・ 行動観察			②室内の空気調節や 音と生活との関わり について、健康 で快適な室内環境 に関する方法を理 解している。 ・ 学習ノート
5 ・ 6 ・ 7 (本時)	○安全で快適に暮らせる住ま いの工夫を考え、安全で快 適な住まい方について考え 家族の視点をふまえて工夫 することができる。 ・ 高齢者疑似体験や幼児体験 を通して、家庭内事故の原 因と対応策を考える。 ・ 地震災害を振り返り、自然 災害による住まいの危険を 知り、対応策を話し合う。 ・ 家族が安全に住まうための 課題について解決方法を具 体的にまとめ、発表する。	③自分や家族が安全 で快適に住めるよう に、住まい方の課題 に意欲的に取り組ん でいる。 ・ 学習プリント ・ 自己評価	①室内環境について 課題を見付け、調 査・観察・実験な どを通して、安全 で快適な整え方や 住まい方について 考え、工夫してい る。 ・ 行動観察 ・ 学習プリント		③家庭内事故の防止 や自然災害への備 えについて安全で 安心な住まい方に 関する方法を理解 している。 ・ 学習プリント ・ ペーパーテスト

(1) 目標

安全で快適な住まい方について考え、問題点を見だし、家族の視点を踏まえて解決するた
めに工夫することができる。

(2) 準備・資料

学習プリント、自己評価カード、高齢者疑似体験セット、震災時の風景写真、ホワイトボード

(3) 展開

学習内容及び活動	教師の指導と評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">安全に住むための工夫をしよう</p> <p>2 住まいの問題点を見だし、取り組む課題を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自然災害に備える住まい・ 高齢者の安全に配慮した住まい・ 幼児の安全に配慮した住まい <p>3 問題解決に向け、安全な室内環境の整え方や住まい方の工夫を考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>4 グループごとに発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none">① 同じ課題のグループ② 異なる課題のグループ <p>5 課題ごとのまとめを全体に発表する。</p> <p>6 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 前時の学習を簡潔に振り返った後、本時の活動の流れや学習課題を確認することによって時間の見通しがもてるようにする。・ 高齢者疑似体験や東日本大震災を想起し、安全で快適な生活のための工夫の必要性に気付くようにする。・ 安全で快適な室内環境の整え方や住まい方の工夫を見いだせない生徒には、既習内容を振り返り問題点を見いだせるように、写真や資料を再提示して支援する。・ 火災、防犯対策について取り上げることも想定しておく。・ 高齢者疑似体験で不自由さや不便さを体験したことを基に具体的にどうしたら解決するのか考えを深められるように十分な時間を確保する。・ 震災が再び起こったら、被害を最小限にとどめるために具体的にどのようにすれば解決するのか考えさせる。・ 始めは、課題の同じ生徒同士のグループに分け、意見やアドバイスの交換をしやすくし、言語活動を活性化させ、気付きを広めたり、工夫点を共有したりできるようにする。・ 互いに追加や修正をしながら、問題解決の工夫を広められるようにする。・ 発表には、図を用いて、自分の伝えたいことが相手によく伝わるような発表になるように助言する。・ ジグソー学習の手法を取り入れ、課題の同じグループから課題の異なるグループへ移行し、それぞれの工夫点を共有化できるようにする。・ 相互評価をしながら発表し合うようにする。・ 災害への備えや家庭内事故の防止等、安全管理のための工夫や方法を確認できるようにする。・ 友達の発表から新たに発見したり気付いたりしたことを自分の言葉でまとめられるように助言する。・ 本単元で学習したことを家庭生活で生かし、安全で快適に生活が送れるように工夫しながら生活できるようにする。